



ビジュアル式操船シミュレータ実験の内容を審議

「名古屋港入港大型船の航行安全に関する調査研究」

第2回特別専門委員会開催

平成27年1月26日に、名古屋港湾会館において「名古屋港入港大型船の航行安全に関する調査研究」第2回特別専門委員会が開催されました。

大量一括輸送による海上輸送の効率化の観点からコンテナ船等船舶の大型化が世界的に急速に進展し、船舶大型化への早期対応が多くの中規模の港湾における緊急の課題となっている中、名古屋港においても水深16mを必要とする大型コンテナ船が一刻も早く入出港できるようにするため、東航路（全幅580m・現水深15m）の幅420m・水深16mの水域を平成27年秋より暫定供用するべく、浚渫工事を急ピッチで推進しています。

それと並行して、幅420mの水域を利用して水深16mを必要とする大型コンテナ船が安全に航行できるよう、特別専門委員会（委員長：長澤 明 海上保安大学校名誉教授）を設置して船舶の航行安全性についての検討を行っています。

○第2回特別専門委員会の実施内容

第2回特別専門委員会では、東航路の幅420m・水深16mの水域を利用して大型コンテナ船が航行する際の操船の影響や、同水域において大型コンテナ船とすれ違う他船舶の影響を把握し、航行安全性に係る検討を行うために実施するビジュアル式操船シミュレータ実験の内容についての審議が行われました。

事務局から、幅420m水域の航行に関し安全上必要と考えられる複数の対策案（警戒船による420m幅の明示など）を反映した複数のシナリオによる操船シミュレーションを実施し、シミュレーション操船者の意見を踏まえて各対策案の検証を行う方法が提案され、審議の結果了承されました。

○今後の予定

平成27年3月中旬に開催を予定している第3回特別専門委員会では、ビジュアル式操船シミュレータ実験の結果を踏まえた、大型コンテナ船の幅420m水域の利用に係る安全性の検討結果、および安全対策案が審議される予定となっております。



写真



第2回特別専門委員会の様子



長澤委員長

- 配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

- 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所 工務課 村上

Tel 052-651-6741 Fax 052-652-0303